

教員免許更新新制廃止、しかも…

新たな研修強化で学校現場はさらに息苦しく

7月1日をもって教員免許更新新制が廃止され、「せいせいした」という先生も多いと思います。しかし文科省は同時に新たな研修制度のため教育公務員特例法(教特法)の「改正」を行いました。新年度から施行される「改正」は、教員一人ひとりの研修等に関する「記録」を任命権者に義務づけ、道教委や校長などに教員の資質向上に関する「指導助言」等を行うことも義務づけています。現在文科省は各都道府県で、「指導助言」の基本的な考え方を示した「指針改正(案)」と、「記録の内容や範囲、校長の助言の方法や時期、教師が期待された水準の研修を受けていると認められない場合の扱い」等を示した「ガイドライン」案を示しパブリックコメントを実施していますが、その内容は免許更新制以上に日常的な管理統制を強め、更に教育現場を息苦しくさせるものです。

「ガイドライン(案)」では、「過度な負担にならないよう、記録の簡素化に留意する必要がある」と繰り返して述べながらも、「作成が望ましい」「作成が考えられる」「原則とすることが適当だと考えられる」との表現で記録を求めています。現在の校外研修件数が、手続き・報告の煩わしさから激減してしまっただけからしても、今以上に研修そのものが煩わしいものになってしまっています。また、「指針改正(案)」では、「研修の成果の確認方法の明確化」としてテストでの確認が求められていますが、校長や道教委がテストを作成し成果を確認するのであれば、それは煩わしさを超えてプレッシャーとなり、「過度な負担」に他なりません。

さらには「指導助言」の機会として、人事評価制度での期首・期末面談が想定されています。そもそも「教師が今後どの分野の学びを深めるべきか」「学校で果たすべき役割に応じてどのような学びが必要か」など、専門的な教科に関わる「適切な指導助言」を校長が行うことができるのかと問われます。また、「対話に基づく受講奨励」が求められるのですが、人事評価の期首・期末面談の中で指導助言がパワハラを誘発してしまうのではないかと懸念は強いと思います。ましてや、「ガイドライン(案)」の通りに過去の履歴も「記録」の対象とされ、人事管理全般、校務分掌、その他の目的のための使途の拡大が認められてしまえば、教職キャリアのすべてにわたり、管理統制されることになりそうです。教員人生全般にわたり「指導助言」の対象とされ続けるのですから、常に追いつく暇もありません。

その結果、「合理的な理由なく研究授業や授業公開における授業者としての参加を拒絶する場合」や「勤務上の支障がないにもかかわらず、必要な校内研修に参加しない場合」等、「期待される水準の研修を受けている」とは到底認められない場合」には、「職務命令を通じて適切な研修受講を命じることが考えられます」としています。さらに「指導」に他なりません。

その結果、「合理的な理由なく研究授業や授業公開における授業者としての参加を拒絶する場合」や「勤務上の支障がないにもかかわらず、必要な校内研修に参加しない場合」等、「期待される水準の研修を受けている」とは到底認められない場合」には、「職務命令を通じて適切な研修受講を命じることが考えられます」としています。さらに「指導」に他なりません。

さらには「指導助言」の機会として、人事評価制度での期首・期末面談が想定されています。そもそも「教師が今後どの分野の学びを深めるべきか」「学校で果たすべき役割に応じてどのような学びが必要か」など、専門的な教科に関わる「適切な指導助言」を校長が行うことができるのかと問われます。また、「対話に基づく受講奨励」が求められるのですが、人事評価の期首・期末面談の中で指導助言がパワハラを誘発してしまうのではないかと懸念は強いと思います。ましてや、「ガイドライン(案)」の通りに過去の履歴も「記録」の対象とされ、人事管理全般、校務分掌、その他の目的のための使途の拡大が認められてしまえば、教職キャリアのすべてにわたり、管理統制されることになりそうです。教員人生全般にわたり「指導助言」の対象とされ続けるのですから、常に追いつく暇もありません。

核兵器禁止条約締約国会議「ウィーン宣言」の意義

核兵器禁止条約の初の締約国会議は6月23日、核兵器の非人道性を再確認し、核兵器依存の安全保障を批判するとともに、条約への参加促進や核兵器の被害者支援など、条約の内容を実現する方策を盛り込んだ「ウィーン宣言」を採択して閉会しました。

会議は、ロシアが核兵器使用の威嚇をしつつウクライナ侵略を継続する中、他の核保有国も核戦力の維持・強化に固執し続ける緊迫した情勢下において、「核兵器のない世界」に向けての希望に満ちた力強いメッセージを発することとなりました。

禁止条約の締約国は65カ国へと増えました(6月29日にマラウイが批准し66カ国へ)。NATO参加国から、「立場の違いはあるが、積極的対話を行っていききたい」と真摯(しんし)な発言が行われたことに対して、率直に評価と歓迎の声が沸き起こりました。

しかし、「一部の非核兵器国が核抑止力を擁護し、核兵器の継続的な保有を奨励し続けていること」に懸念を抱いているとの指摘は、「橋渡し役」を公言しつつも、米国の核の傘にしがみつくことで、期待されたオプター参加すら見送った日本政府の立場に対する厳しい批判に相違ありません。日本政府は真摯に受け止めるべきではないでしょうか。

この会議の流れを、8月に開催されるNPT(核不拡散条約)再検討会議の前進にむすびつけていくことが強く求められています。とりわけ、禁止条約とNPTとの補完性については、今回の会議でも繰り返し強調され、禁止条約とNPTを「核兵器のない世界」に進む「車の両輪」としていくことは、今後の重要な課題となっています。禁止条約とNPTの間の摩擦を懸念していた米国の同盟国のオプター参加国からも、「今回の締約国会議が意図したNPT支持の明確な宣言を高く評価する」との声があがるなど、会議は、NPT再検討会議での前進の合意形成に向けても、重要な意義をもつものとなりました。

「ウィーン宣言」は、「私たちが、最後の国が条約に参加し、最後の核弾頭が解体・破壊され、地球上から核兵器が完全に廃絶されるまで、休むことはないだろう」との決意で結んでいます。私たちがこの決意を胸に刻み、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して進んでいきたいと考えます。

「ウィーン宣言」は、「私たちが、最後の国が条約に参加し、最後の核弾頭が解体・破壊され、地球上から核兵器が完全に廃絶されるまで、休むことはないだろう」との決意で結んでいます。私たちがこの決意を胸に刻み、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して進んでいきたいと考えます。

「ウィーン宣言」は、「私たちが、最後の国が条約に参加し、最後の核弾頭が解体・破壊され、地球上から核兵器が完全に廃絶されるまで、休むことはないだろう」との決意で結んでいます。私たちがこの決意を胸に刻み、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して進んでいきたいと考えます。

会議には米国の同盟国も含め34カ国がオブザーバーとして出席し、会議期間中に核兵器

「ウィーン宣言」は、「私たちが、最後の国が条約に参加し、最後の核弾頭が解体・破壊され、地球上から核兵器が完全に廃絶されるまで、休むことはないだろう」との決意で結んでいます。私たちがこの決意を胸に刻み、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して進んでいきたいと考えます。

「ウィーン宣言」は、「私たちが、最後の国が条約に参加し、最後の核弾頭が解体・破壊され、地球上から核兵器が完全に廃絶されるまで、休むことはないだろう」との決意で結んでいます。私たちがこの決意を胸に刻み、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して進んでいきたいと考えます。

「ウィーン宣言」は、「私たちが、最後の国が条約に参加し、最後の核弾頭が解体・破壊され、地球上から核兵器が完全に廃絶されるまで、休むことはないだろう」との決意で結んでいます。私たちがこの決意を胸に刻み、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して進んでいきたいと考えます。



休めるときには
しっかり休んで
身も心もリフレッシュしませんか。

教育のつどい 教育研究全国集会2022 in 高知 開会全体集会・教育フォーラムオンライン視聴

- ◎全体集会講演
8月18日(木)19:00～20:45
「多様性を包み込む社会へ」
田中優子さん 法政大学元総長
 - ◎教育フォーラム
8月19日(金)18:30～20:30
 - ・A どの子にも豊かな「子ども時代」を
 - ・B GIGAスクール構想・教育DXをジャックせよ!
 - ・C 子どもの「多様性」を尊重するとは～「みんなちがって、みんないい」を考える
 - ・D 平和な未来を子どもたちとともに
 - ・E 開かれた学校づくり 語って作ろう学校を
- ※視聴を希望される方は高教組札幌支部へメールで申し込んで下さい。
koukyousosapporo@gmail.com

さっぽろく子育て・教育>市民フェスティバル実行委員会学習会

ジェンダー問題を人権の視点から学ぶオンライン学習会です。学校での私たちの「指導」はこのままで大丈夫?!
日時: 7月25日(月) 19:00~
講師: 北海道合同法律事務所弁護士 加藤文晴さん
「人権の視点から多様な性のあり方を考える」

<https://us02web.zoom.us/j/84548201491?pwd=RmNYNGRtVC9nRTVSb3ZqcTJlR2ZRdz09>

ミーティングID: 845 4820 1491 パスコード: 981960